

平成20年度 第4回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成21年3月19日(木) 18:30~20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 12名…飯塚、伊藤、井上、大島、小野、加藤、柴崎、塚田、鷹野、多田、増田、渡辺

事務局 4名…指定管理者YMC Aコミュニティサポート 田邊、沼崎

市民生活課 小座野、堀井

傍聴者 0名

1 報告事項

- ・次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

- ・提案どおり承認された。

[意見概要]

1-(2) 利用状況・利用者の声について

(指定管理者)

年末年始にかけて、一人の方にスタッフが受付で何度もミスを重ねてしまった。ご本人と話し合いを行って謝罪するとともに、今回のミスとその対応及び改善策を表にして掲示した。今後、このようなことが起こらないように研修を行い、気を引き締めて取り組んでいくとともに、マニュアルの整備を進めている。

(多田委員)

受付が一番大事なため、ミスがないようにしてほしい。マニュアルの整備はきちんとすべきである。全てのことを覚えるのは難しいから、何を見ればわかるというようにしておいてほしい。

(井上委員)

サポートセンターは色々な人が来る場所なので、受付は大変だと思う。この場合にはこのように対応するということがきちんと言葉で書かれていないと身につかないので、マニュアルの中にトラブル集を入れておくとよい。経験の積み重ねが結果的に自分たちの財産になる。

(増田委員)

書類を作っても万全ということはない。一生懸命に対応しても、慌ててしまうこともあるし、相性もあるだろう。間をおく、深呼吸をするなど、トラブルに対応できるようなテクニックを身につけることも大切である。

1-(5) 他都市支援施設の見学

(多田委員)

各施設において、全く雰囲気違った。施設の設置経緯や管理している団体の立ち上がり方、行政との関係も様々であり、そこからそれぞれの施設の目的や方向が違ってくるのかもしれない。

(井上委員)

鎌倉はアットホームで、藤沢は組織的だと感じた。まとめ役の方は両方とも、非常に個性的である。イニシアチブをもって引っ張っている。その点横須賀は平均的だが、館長としては引っ張っていく部分と、みんなで話し合っていく部分の両方が必要だと思う。

(小野委員)

責任者が非常に頑張っている。両者とも熱意を感じた。ただ、一人で頑張っていると、その人がいなくなった後はどうするかと心配になる。藤沢はデータベースがしっかりしているので参考にしたい。鎌倉は情報化支援が興味深かった。

(増田委員)

フリートークが少なかった。もう少しポイントを押さえた質問がしたかった。例えば、行事を開催すると人が集まると言っていたので、その点を聞きたかった。

(井上委員)

若者を取り込むのが上手だと感じた。

(指定管理者)

それぞれに工夫されている部分がたくさんあって大変参考になった。また、リーダーの熱意や勢いに圧倒された。

(市民生活課)

両者とも、施設目的を「市民活動団体の支援」に絞っており、特に藤沢は「受益市民」(一般市民)に対する支援は行わないとはっきり言っていた。そこは横須賀と違う点だと思った。

2 - (1) 市民公益活動団体について

(増田委員)

他都市の施設見学で、2、3人の団体は継続できずに解散することが多いと言っていた。公益性の判断に会員数も考慮に入れるべきではないか。

(指定管理者)

人数が少ないからといって、全ての団体が解散するわけではない。立ち上げ時は少人数でもそこから賛同者を増やすことができる。結果的に少人数のグループは解散する場合が多いかもしれないが、活動をしたいという人たちを支援するためには、なるべく広く門戸を開けておきたい。

その他(備品の購入について)

(井上委員)

のたろんフェア2009ではイベントお助け隊の協力で会場周辺にスピーカーを設置して、好評だったので、ミニスピーカーを購入してはどうか。サポートセンターを利用する団体も活用できると思う。備品の購入はどのように決定されるのか。

(市民生活課)

市の予算は前年9月頃に計画するので、夏頃にスタッフへ何か必要なものがあるか確認している。現状では既存備品の交換がほとんどで、よほどの理由がなければ新しい備品を購入するのは難しい。

(指定管理者)

のたろん基金で購入するには、団体のニーズを検討したうえで運営委員会に諮ることは可能である。

以上